

重要なまちづくりの課題の現状評価シート

| | | |
|--------------------|-------------------------|-------|
| 重要なまちづくりの課題(めざすべき) | 地域の伝統や文化財が大切に保存、伝承されている | |
| 施策名 | 文化財を保存・伝承する | No.39 |

| | |
|-------|---------|
| 年度 | 平成27年度 |
| 責任部長 | 教育文化部長 |
| 主担当課長 | 博物館事務局長 |
| 関係課 | 生涯学習課 |

1. まちづくり指標の現状

| まちづくり指標 | 指標のめざす方向 | 現状値 | | 実績値 | | | | 目標値 |
|----------------------------------|--------------------------|----------------|----------------|-----------------|----------------|------------|------------|----------------|
| | | H18 H24 | H20 H25 | H21 H26 | H22 H27 | H23 H28 | H24 H29 | 5年後 10年後 |
| 一宮市の伝統や文化を理解し、後世に受け継ごうと思う人の割合(%) | → | — — | — 42.9 | — 40.7 | — 41.4 | — | — | — 55.2 |
| 無形文化財・無形民俗文化財の保存を担っている人の数(人) | ①町内会が保存会の会員数 ②その他の会員数 | 5,730 5,869 | 5,755 6,152 | 5,826 10,085 | 5,288 9,592 | 5,841 | 5,869 | 6,500 7,340 |
| | | 75 129 | 75 117 | 143 110 | 121 110 | 120 | 129 | 88 130 |
| 地域の歴史、文化、伝統、文化財に関する講座などの開催数(回) | → | 66 64 | 82 97 | 75 99 | 92 111 | 75 | 64 | 73 81 |

2. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

民俗芸能では、担い手の高齢化や減少、地域の若手も景気回復が実感できない状況では参加する余裕もなく、伝承が危機的状況にある。こうした中でも公演の機会を増やすなど、やりがいと喜びを感じられるよう長期的な視野に立って伝承所在地域の若手育成のための保護が急務である。文化財全般について、歴史遺産・産業遺産や自然環境に興味・関心をもつ市民が増えており、国・県・市の指定文化財などを後世に伝えるために、維持・管理・保護や保存のための修理などの事業が必要不可欠である。

3. めざすべき姿に対する現状評価(まちづくり指標や外的要因等からの評価)

| | | |
|------|----------------|---|
| 現状評価 | B 停滞 | まちづくり指標の「無形文化財・無形民俗文化財の保存を担っている人の数」の町内会が会員数となっている保存会の会員数は減少しているが、人口動態より地域ぐるみで保存していることが重要で、「地域の歴史、文化、伝統、文化財に関する講座などの開催数」はおおむね上昇傾向にある。「一宮市の伝統や文化を理解し、後世に受け継ごうと思う人の割合」や保存会のみでの会員で活動している団体の会員数は後継者不足もあって停滞傾向にあるといえる。しかしながら、依然として高い数値が維持されていると評価できる。 |
|------|----------------|---|

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価(行政活動の評価)

| 長期成果(事業群①) | 長期成果(事業群②) | 長期成果(事業群③) | 長期成果(事業群④) |
|------------------------|----------------------|------------|------------|
| 民俗芸能や文化財が適切に保護・保存されている | 多くの市民が地域の伝統文化を理解している | | |
| 民俗芸能伝承補助事業 | 民俗芸能伝承推進事業 | | |
| 文化財保護補助事業 | 民俗芸能発表会事業 | | |
| 指定文化財管理事業 | 文化財保護啓発事業 | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価観点 | 1. 長期成果は重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の一手手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。 |
| 評価 | 長期成果は地域の伝統や文化財自体の保護・保存と市民の理解に分けており、モレなくダブリなく設定されている。行政が補助や機会の提供などやれるところまでやる努力が重要であり、各事業群で必要十分と考えられる。各事業の内容の一層の充実が求められるが、限界がある。PRなど徹底するなどの工夫が必要である。 |
| 次年度の改善計画 | 伝統芸能等は、見に来ていただくことで張り合いとなり、技能の向上心高揚や新たに保存会に市民が参加するなど、保護や保存に相乗効果をもたらす。祭り等に上演される場合は大きなPRの機会となるので記者クラブへの報道発表対象の増加、そのほか解説資料の充実、小中学校の副読本での紹介、また夏の市民会館と冬の博物館に加え春秋にも博物館中庭で公演するなど発表の機会を増やす支援で、より相乗効果の得られるしくみづくりを検討する。 |

総合計画推進市民会議による現状評価(※総合計画推進市民会議が発表した「重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の評価書」から転記)

| | | |
|----|------------------|---|
| 評価 | A 改善傾向 | 各指標とも改善傾向であり、行政の支援がうまく機能していると思われる。今後は地元の文化財に対するPR活動や若者の関心を集める工夫が必要であると考え。 |
|----|------------------|---|